

トルコ・日本科学技術大学（TJU）開学式
中曽根総理特使によるスピーチ
（10月14日（水）10:00－12:00）

エキンジ外務副大臣、キョク学長、ご列席の皆様。

本日、高市内閣総理大臣の特使として、トルコ・日本科学技術大学（TJU）の開学式に出席できることを、大変光栄に思います。日本国政府及び日本国民を代表し、TJUが晴れて開学の日を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。

先月NYで行われた日トルコ首脳会談においても、高市総理とエルドアン大統領の間でTJUの開学を共に喜び、両国の協力関係を教育、経済、防衛等の幅広い分野で一層推進させていくことで一致しました。

開学に向けて、本日御在席のエキンジ外務副大臣を始めとするトルコ共和国政府の皆様のたゆまぬご尽力に感謝を申し上げますとともに、力強いリーダーシップを発揮されたキョク学長、ギュネル理事会議長を始めとする両国の理事の方々、3年以上にわたり学長とともに開学準備を進め、日本の大学との連携構築に奔走してくださった三原プロボスト及び富田専門家を始めとする大学関係者の皆様に深い敬意を表します。

また、新設大学であるTJUに、第1期生として入学された学生の皆様に、心からの祝意を申し上げます。

日本とトルコの友情には、長い歴史があります。エルトゥールル号事件やトルコ航空機による邦人救出劇、私たちはこうした過去の助け合いを、友好の証として大切に語り継いできました。

その上で、ボスポラス海峡横断地下鉄やイズミット湾横断橋など、大規模かつ画期的なインフラ事業や、都市型病院建設事業など、様々な協力を着実に積み重ねてまいりました。

そうした中、TJUは、2013年5月、安倍晋三内閣総理大臣がここアンカラを訪問した際、エルドアン大統領から両国の共同事業として高等教育・先端科学技術研究拠点を創設するという御提案を受けたことに始まります。

エルドアン大統領と安倍元総理が蒔いた新たな友情と協力の種は、13年の歳月と幾多の困難を越え、両国の関係者の情熱によって、今日、大きな花を咲かせました。

両国の絆を「戦略的パートナーシップ」へと押し上げ、トルコの人々から「トルコの真の友人」として親しまれた安倍元総理は、残念ながら、この日を自ら迎えられることはなく旅立ってしまわれました。しかし、安倍元総理の御遺志をしっかりと引継ぎ、TJUを立派に育て上げていくことを、ここに誓いたいと思います。

今や、トルコは教育と最先端テクノロジーの分野で世界を牽引する国へと大きく進化を遂げました。トルコ国内の多くの大学が世界ランキングの上位へと急上昇す

ると共に、防衛装備・科学技術の国産化率は80%を超えるなど、まさに技術革新のフロンティアを走る技術大国となりました。

また、地政学的に重要な場所に位置し、G20メンバー、NATO加盟国でもあるトルコの国際社会における重要性は年々増しております。現下のウクライナや中東情勢においても、仲介の役割を果たしてきたトルコの尽力を、日本としても高く評価しております。

こうしたトルコを取り巻く新たな情勢も踏まえ、TJUはトルコの世界における存在感を更に高めていくための人材及び研究拠点になることが期待されています。

TJUは、トルコの国立大学としてここアンカラに設立され、トルコ政府のオーナーシップのもとで運営されていく大学ですが、日本はそのパートナーとして、常に伴走してまいります。

TJUの船出にあたり、東京科学大学、筑波大学、東京大学地震研究所といった日本を代表する大学が、既にTJUとMOU（学術交流覚書）を締結しています。

今後、さらに多くの日本の大学がTJUとの連携を強化し、教員・研究者・学生が活発に交流する「頭脳循環（Brain Circulation）」を推進できるよう努めていきます。このTJUを、世界最高水準の研究・教育拠点へと育てていく、私たちはその実現を、全力で支援していきます。

また、地震多発国である日本とトルコにとって、防災・減災研究の強化は、両国民の命と未来を守るために最重要の課題です。日本政府として、TJUの地震災害研究の基盤となる研究教育機材を供与いたします。

こうした協力を通じて、ここTJUで両国の研究者が日本の経験、知見、技術を活用し、未来の強靱な社会を築く礎となることを強く願っています。

両国の次世代の絆をより強固なものとしていく。その担い手は、ほかならぬ、今日ここにいる第1期生の皆様です。皆様がこのキャンパスで積みかさねていく学びと友情が、やがて日本とトルコ、そして世界を結ぶ新たな架け橋となることを、心から祈っています。

結びに、ご列席の皆様のご健勝と、TJUのこれからの輝かしい歩みを祈念し、私の挨拶といたします。

御清聴ありがとうございました。